

【評価報告書】

認定こども園早岐幼稚園

認定こども園第三者評価結果報告書

報告内容	公表／非公表	ページ
運営法人情報	公表	P1
理念・基本方針		
施設の特徴的な取り組み		
第三者評価結果の総評		P3
第三者評価結果		P4～16
第三者評価確認書類リスト	非公表	P17～P18
公開保育への取り組みの様子（写真）	非公表	P19～P20
第三者評価結果（詳細）	非公表	P21～P38

(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

【運営法人情報】

施設名称	認定こども園早岐幼稚園
運営法人名称	学校法人吉永学園
施設種別	幼稚園型認定こども園
代表者氏名	理事長 吉永庸子
施設所在地	〒859-3215 長崎県佐世保市早岐二丁目29番17号
電話番号	0956-38-2207
FAX番号	0956-38-5603
ホームページアドレス	https://www.haiki-himawari.jp/
メールアドレス	fun.kids@major.ocn.ne.jp
事業開始年月日	大正12年5月23日
教職員・従業員数	13名
施設・設備の概要	敷地全体面積 1,109 m ² 建築面積 363.64 m ² 建物延面積 527.97 m ²

【理念・基本方針】

「子どもの遊びを大切にしたい」という初代園長の気持ちを引き継ぎ、子どもと真剣に向き合う時間を大切に、遊びを中心とした保育の中で、「遊びの中では子どもたち一人一人が活動の主役である」と捉え、子どもたちが主体的に活動し、楽しい園生活を送り、人格形成の基礎を培われることを目標に一人一人にあった援助を心がけている。遊びを通して豊かな心を持ち、元気に遊ぶ子どもを育成します。

*健康で明るい子ども

- ・ 戸外で元気に遊べる子ども
- ・ 友だちと仲良く遊べる子ども

*自主性のある子ども

- ・ 自分で考えて行動する子ども
- ・ 最後までやりぬく子ども

*情操豊かな子ども

- ・ 物を大切にする子ども
- ・ 感謝、思いやりの気持ちをもつ子ども

【施設の特徴的な取り組み】

食育活動に力を入れています。園隣接の畑で種まき・苗の定植から収穫までを体験することで興味関心が深まり、収穫を通して食べることの大切さを知り、食べ物に対して感謝の気持ちもつことができます。

幼小連携に取り組み、小学校への滑らかな接続の実現に努めています。入園時から、就学に向けて「遊び」の中で一人一人の育ちの特性を大切に、3つの柱・10の姿を常に念頭に置きながら、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように日々の保育の

振り返りを行い、次につながる幼児教育・保育の計画、実践に努めています。

【評価機関情報】

評価機関名	(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	平成 31 年 1 月 19 日
評価者	H29A00844、H27B00527
ECEQ コーディネーター・支援者	EH29400253

【総評】

●総合評価

評価〔 A 〕

園の理念にもあるように遊びを中心とした保育が展開され、公開保育でも子どもたちが主体的に遊びや活動をしていることが確認できた。理念や教育目標を教育課程やカリキュラムにも入れ込み、子どもたちの姿から保育計画を立てている園だと感じる事ができた。また、園長先生と教職員が共に同僚性を育み、園長のリーダーシップのもと教育が展開されていることが評価される。食育や、幼小連携、近隣の幼稚園との交流にも力を入れ、地域の資源や人材を活用し子どもたちに多様な経験ができるよう工夫されていた。子どもたちが主体的な遊びを展開する中で、特別な支援を要する子に先生も子どもたちも寄り添い、温かい雰囲気の中で教育・保育が展開されていることが公開保育でも見られ、通常の保育がどのように展開されているかが理解でき特に評価をする部分だと感じた。

●特に評価が高い点、園の良さ等

子どものお迎え時に転勤で転園の挨拶をしている場で、子どもも保護者も先生たちも涙の別れをるところを拝見した。転園する保護者だけではなく、周りの保護者や、園長先生はじめ先生方が別れを惜しむ場面を見て、子どもたちや保護者がこの園で良かったと評価している場面として受け止めた。日々の保育実践がこのような形になったことであると感じ、この園のすばらしさに立ち会うことができたことを評価の高い部分として記載する。

●課題、改善を求められる点

立地の条件で子どもたちがボールなどで思いきり遊べない状況があるが、近隣の公園やグラウンドを使い解消できるよう計画を組んでいた。また、保育を追求すると会話や準備の時間の確保が課題と上げられていた。ECEQStep5 振り返りでも課題となっているので、さらなる幼児教育の質の向上のために改善を期待する。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

公開保育を受けたことで、教育理念・基本方針を全職員で振り返り、改めて創立者の気持ちを大切にしながら教育・保育に努めることができた。第三者評価に対しては、教育・保育・運営について多くの質問に一つ一つ答えることで、それらのことを再確認し、自園の良さに気づくと共に今後の課題までも見いだすことができ、とても喜ばしいことである。また、ステップ1から

ステップ5までを経験し、高い評価をいただいたことで職員一人一人の自信につながったと共に、教育・保育・運営に対する次年度に向けての課題も見つかり、いい機会となった。今後も教育・保育の質向上に向け自己研鑽に努め、職員間の連携に力を入れ、更に同僚性を高めていきたいと感じた。

第三者評価結果

I 保育の公開に伴う保育のプロセス評価

1. 事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

自由遊びを大切にし、異年齢交流も取り入れた保育に取り組む中、子どもにも保育者にも笑顔がたくさん見られる。思いやりや優しさの豊かな育ちが感じられ、園全体の温かい雰囲気印象的であった。そのような中、子ども達のがのびのびと遊ぶ姿が多く見られる一方で、保育者からは、自分でしようとしなない、考えようとしなない、すぐにあきらめてしまう、落ち着いて話が聞けない等の子ども達の様子や、遊びの展開・発展・持続性の問題点などが課題として挙げられた。また、保育者自身にも声のかけすぎや先取り、保育の進め方や計画性の問題、効率の悪さやアイデアの乏しさ、トラブルへの対応、個人差への対応等の課題が明確になり、それを整理して共有することができた。

2. ①公開保育実施時の課題等

戸外での自由遊びから始まり、室内に移動してからはそれぞれの学年で、ごっこあそび、制作、集団ゲームなどで遊んでいた。全体的には、ほとんどの子どもが好きな遊びを存分に楽しむ姿があったが、遊びを見つけにくい子、遊びが長続きしない子、集団で遊んではいるが本当は違う遊びがしたいのではないかと思われる子も見受けられた。また、子どもが好きな場所で好きな遊びを楽しめるように配慮されている分、活動範囲が広く関わるチャンスに保育者がその場にはいないなど、保育者の人数、配置、保育者間の連携等、自由保育ならではの課題を感じた。

②公開保育後のカンファレンスにおける外部から見た良さや課題

各学年も、子ども達が意欲的に主体的に楽しく遊んでいる姿や、保育者に禁止や否定の言葉がみられないこと、子ども達の興味に合わせたテーマの設定や、遊びに深まりや広がりが見られるような環境の工夫が随所にみられることに対し、参観者からは励ましの言葉や共感の意見が多く寄せられていた。課題としては、道具の出し方や置き場所、遊び方の安全性への配慮についてや、音楽の使い方と聴かせる環境への工夫、集団と個のバランスや個人差への対応など、配慮や工夫があると更によくなるのではという意見が聞かれていた。

3. 事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

保育者からは、保育を楽しめるようになり自信がついた、子どもの様子や変化について話す機会が増え団結力が高まった、という声が聴かれた。子ども達も意見やアイデアを出すようになり、じっくり夢中になって遊ぶ様子や自分でやってみる姿が見られるようになった。保育者が子どもの声に耳を傾け、声をかけすぎず子どもの主体的な行動を待ち、子どもの考えや思いを大切にするようになったことが、子ども達の変化につながっている様子が伺えた。課題としては、情報の共有と協力連携の体制づくり、会話を増やすための時間の確保や仕事の簡素化など組織としての課題、子どもの思いを実現し保育をより充実させるため引き出しを増やす、柔軟性を高めるなどの保育者自身の課題が整理され、具体的な解決策としては園内研修の充実、保育計画を共有するための見える化、先を見通した計画、役割分担、行事の見直し等が挙げられ、共有することができていた。

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

<A 教育・保育>

① 子供の人権、安全と健康

	調査項目	確認結果
1	一人一人の子供の家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。	済・未
2	子供や保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。	済・未
3	身体、性、年齢、発達の差等、生来的な差によって子供に不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。	済・未
4	園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。	済・未
5	子供の成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての営み）がなされている。	済・未
6	園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、先生と子供に、共に大切に扱われている。	済・未
7	全ての子供が「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子供集団（学級）のなかにある。	済・未
8	園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子供たちに愛情や感謝の気持ちが育っている。	済・未
<p>（コメント）</p> <p>子どもの人権、文化の違い、互いに尊重する心について、その方針等を保護者に示すとともに、保護者も理解する取り組みを行っている。又、子ども理解のための個別の記録を作成し適切に管理されて保育者に周知されている。</p> <p>保育の場面では、クラス子どもだけではなくすべての子どもたちを受け入れ、子どもの心情を汲み取り、思いを尋ねる態度が保育者に身につけていることが確認された。</p>		

②保育者の資質向上・研修

	調査項目	確認結果
1	豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	済・未
2	保育者の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	済・未
3	自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	済・未
4	公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができています。	済・未
5	職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	済・未
6	教職員一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。	済・未
7	子供と関わることを喜び、子供の遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。	済・未
8	教職員一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>日常的に、互いの実践を見合う機会があり、それをもとに保育者同士が語り合う等、園内研修の場が確保されている。又、園の研修の記録から外部の研修にも積極的に参加し、研修報告を周知していることが確認された。公開保育のカンファレンスにおいても今までの育ちや今後の課題を積極的に発言する姿が確認された。</p>		

③ 子供理解・指導の計画等・環境・実践・記録振り返り

1) 子供理解

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期の発達過程を踏まえながら、一人一人の子供の内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を教職員全体が理解しようとする風土を持っている。	済・未
2	子供の姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子供理解に努めている。	済・未
3	子供の記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子供理解の共有を教職員間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。	済・未
4	遊びや活動の意味についてそれが子供の成長とどう関連しているのか？記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。	済・未
5	園での子供の育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子供理解の幅を広げようと努めている。	済・未
6	特別な配慮を必要とする子供一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。	済・未
7	特別な配慮を必要とする子供の家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子供理解を図っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>様々な記録により子どもを多面的に理解するように努めていることが確認された。また、保育参観、保護者会活動等の機会を設け保護者自身が子どもの姿を実際に見て理解できるように努力していることが確認された。特別な配慮を必要とする子についても、家庭との連携や専門機関との連携ができていることも確認でき、療育が必要とする保護者へのアプローチも園長を中心とし図られていた。</p>		

2) 教育・保育の計画

	調査項目	確認結果
1	幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子供の発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。	済・未
2	子供の発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	済・未
3	日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。	済・未
4	個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	済・未
5	保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	済・未
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。	済・未
7	計画は実践につながりながら、気候やその日の子供の状態等に即して柔軟な対応がなされている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>教育課程と指導計画は、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領に即して作成されている。又、教育課程、指導計画をもとに子どもたちの姿から計画された月案、週日案等で計画されたことは、実践の振り返りを基に、翌日、翌週の実践へとつながっていることが確認された。</p>		

3) 環境の構成

	調査項目	確認結果
1	<園舎等の空間>子供たちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子供の自主性・自発性を尊重すると共に、子供同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。	済・未
2	<遊具・家具・絵本・廃材などについて>子供の成長に合わせた遊具や絵本が、子供の手の届く場所に適切な量で用意され、子供が自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。	済・未
3	<園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子供が安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。	済・未
4	<動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。	済・未
5	<リズム・造形等の表現活動などについて>リズム・造形等の多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。	済・未
6	<数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。	済・未
7	<衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子供たちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。	済・未
8	<メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子供の身体にあった大きさを整えられ修繕されている。	済・未

(コメント)

屋外には四季を感じられる植栽や園庭環境があり、子どもたちが興味や関心を持ちイメージを広げて遊んでいる。また、早岐神社が隣接しており、園庭ではできない体験を十分に経験できる環境が整っていた。屋内では、数量や文字標識等に触れる環境や、子どもたちが手に取り落ち着いて読める十分な量の絵本が揃えられ、豊かな環境となっている。

4) 実践

	調査項目	確認結果
1	<p>乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。</p> <p>(1)子供が保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。</p> <p>(2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。</p> <p>(3)子供が友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。</p> <p>(4)子供の発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。</p> <p>(5)在園時間の異なる子供が落ち着いて過ごせるような配慮をしている。</p>	済・未
2	<p>子供の生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。</p> <p>(1)子供が主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。</p> <p>(2)子供が自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。</p> <p>(3)子供の主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。</p> <p>(4)子供が周囲の自然に親しみを持ち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。</p> <p>(5)子供の発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。</p>	済・未
3	<p>遊びを通した総合的な指導を行っている。</p> <p>(1)子供が主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。</p> <p>(2)子供が発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。</p>	済・未

4	<p>子供一人一人の特性や発達のプロセスに応じた指導をしている。</p> <p>(1)子供一人一人の発達のプロセスや生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。</p> <p>(2)子供が主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。</p> <p>(3)子供一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。</p> <p>(4)特別な配慮が必要な子供（障害のある子供を含む）の教育・保育に当たっては、ほかの子供との生活を通して共に成長できるように援助している。</p>	済・未
5	<p>行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。</p> <p>(1)季節の行事や誕生会等を通して、子供が季節感や文化などを体感できるようにしている。</p> <p>(2)子供が行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。</p> <p>(3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子供が地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。</p>	済・未
<p>(コメント)</p> <p>多くの公開保育参加者の発言から、早岐幼稚園の保育者が適切な援助を行ったり、子どもが自分の力でいろいろな活動に取り組めるように配慮したりしていることが確認された。また、異年齢での関わりや配慮を必要とする子どもへの関わりも見られ、保育実践が適切に行われていることが確認できた。</p>		

5) 記録・振り返り

	調査項目	確認結果
1	<p>個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子供の状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。</p>	済・未
2	<p>記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。</p>	済・未
3	<p>適宜、保育者間のカンファレンスが行われ、実践の振り返りと適切な評価の機会がある。</p>	済・未

4	情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。	済・未
5	園内で共有された子供の育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>カンファレンスやケース会議の記録や行事計画案・行事反省会記録等の記録を確認しヒアリングを行った結果、園として記録を継続・共有する仕組みが有効に働いていることが確認された。また、学年を超えて話し合いが行われており、子どもたち一人一人の育ちを共有できていた。</p>		

⑤家庭・地域連携

	調査項目	確認結果
1	小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	済・未
2	子供の成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	済・未
3	自己評価・関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	済・未
4	子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	済・未
5	教育時間終了後等に行われる保育は、子供の生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	済・未
6	地域の資源を積極的に活用し子供が豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。	済・未

(コメント)

幼小連携に取り組んでおり、密に話し合いや児童との連携が行われていることが確認できた。また、近隣の園とも交流し同年代の子どもたちとの交流も行われている。子どもの様子や保育の意図をお便り等で保護者へ伝えたり、保護者が子育てについて気軽に話し合えたりできる連携や交流の場が確保されていることも確認できた。

公開保育コーディネーターからの報告

園長・主任の思い、園の方針や保育実践の内容、保育者の関わり、どれにも元々子どもの主体性を大切にするという高い意識があり、それが園の雰囲気にしっかりと反映されていることを強く感じていたが、今回の公開保育を通して、教職員の自信や意欲、向上心や同僚性がとても高まったのではないかと感じている。保育という営みは、良いところが課題にもなり、取り組んだ成果がまた更に課題となって提示されることの繰り返しだとつくづく感じるが、保育を公開するための事前事後の園内研修で職員間の共通理解が深まり、思いを伝え合い学び合いながら一丸となって進んでいこうとする力が与えられることが、ECEQの効果であると強く感じた公開保育であった。

II. ヒアリング等・書面等による評価

< B 運営 >

① 運営体制

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	教育・保育に対する理念や方針が明確である。	済・未	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に基づく教育・保育に対する基本方針を明文化している。 ・遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。 ・帳票等を整備し、公認会計士の監査を実施している。 ・就業規則が整備され最新の法令に沿って改編されている。 ・園内研修を行っている。園外研修に参加させている。 ・自己評価、学校関係者評価を実施し公開している。
2	コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。	済・未	
3	会計事務を適切に行っている。	済・未	
4	人材確保や継続して勤務できる職場環境である。	済・未	
5	教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。	済・未	
6	適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。	済・未	
7	学校評価を実施している。	済・未	
8	適正な法人運営を行っている。	済・未	
<p>(コメント)</p> <p>90年以上にわたり地域に根ざした幼稚園として幼児教育に真摯に取り組んでいる。運営面では教育・保育の理念が教職員や保護者に対して明確に示されている。</p> <p>法人運営では学校評価を適正に実施することに加えて公開保育を実施するなど教育の質の向上に取り組んでいる。又、教職員の残業時間を減らす努力を行う等、働き方の改革にも取り組むなど教育の質を向上させるための運営体制が整備されている。会計面においても公認会計士による監査を実施し適正に運営されている。</p>			

②安全管理

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	済・未	<ul style="list-style-type: none"> 各マニュアルが整備されている（災害マニュアル・自然災害マニュアル・事故マニュアルなど） 各訓練が実施されている（訓練実施報告書など） 安全点検を行っている（安全点検結果報告書など）
2	教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	済・未	
3	園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	済・未	
4	園児の衛生・健康管理に努めている。	済・未	
<p>(コメント)</p> <p>火災や自然災害等を想定して、火災、災害、事故等の各種マニュアルが整備されている。保育における怪我等も共有し再発防止に努力している。</p>			

③子育ての支援

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	学び発達の連続性を確保するために、小学校と連携をはかり、地域の関係機関や団体と交流し連携をはかっている。	済・未	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の教員と交流をはかっている。 地域の関係機関や団体と交流をはかっている。 保護者へ子ども達の育ちを伝える機会を設けている（個人面談など）
2	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取り組みを行っている。	済・未	
<p>(コメント)</p> <p>在園児の保護者に対して、保育の様子や子どもの育ちをドキュメンテーションや各種のお便り等で伝えている。園庭開放等により地域の子育て支援にも取り組んでいる。</p>			